



イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2011年10月1日 No. 044

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



「イルカの対物行動」

イルカでは「モノ」を使った行動の観察例が多くあります。オーストラリア西部にあるシャーク湾のハンドウイルカは、採餌の際に海綿を吻にかぶせることが知られています。またその行動が母親から子供に伝えられていると考えられています。

ここ小笠原でもドルフィンスイムの最中に、ミナミハンドウイルカが海藻をヒレに引っかけたり、捕まえたと思われる餌をついたり「モノ」を使った行動を見ることがあります。御蔵島のミナミハンドウイルカでは、ビニールやカップなどのゴミと思われる「モノ」で遊んでいた例も報告されています。

「イルカの性格を知るために」

私たち人間に性格があるように、他の動物たちにも性格があって、この性格を遺伝子から調べる研究が行われています。人間では「新しいもの好き」や「楽観的」、「不安を感じやすい」など、それぞれの性格に関連した遺伝子が見つかっています。

動物の性格の形成には、周囲の環境だけではなく、遺伝的な要因も大きく関わっています。近年では、霊長類やイヌなどで性格に関連する遺伝子の解明が進んでいます。

そしてイルカでも、性格を調べようとする試みが水族館の飼育個体を中心に行われています。もしもイルカの性格を調べることが出来れば、それぞれの性格に合った飼育などに応用できるかもしれないからです。そして野生下のイルカでも、この研究が始まりつつあります。OWAでも今年度から、帝京科学大学と京都大学と共同で、イルカの遺伝子を使って性格を調べるといふ研究を始めようとしているところです。

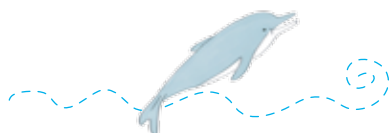
DNAから性格を判断するには、イルカの糞などが必要となります。しかし、糞から採集した遺伝子を調べたからといって、すぐに性格が分かるわけではなく、その性格を判断するために、行動の情報も必要になってきます。予定では来月の11月から本格的な調査を始める予定です。

将来的には個体ごとはもちろんのこと、例えば御蔵島と小笠原のミナミハンドウイルカで性格が違つか分かったら面白いかもしれませんね



イルカの対物行動

この「モノ」を使用した行動が本当に遊びなのかどうかは、まだ分かりません。さらに成長段階によって、これらの行動に変化があるのかなど、不明な点が数多くあります。OWAでは今後、他大学との共同研究として、この「モノ」を使った行動を調べていく予定です。地域によって、行動に違いが出たら面白いですね。もしこのようなイルカの行動を見かけたら、OWAまでお知らせ下さい。よろしくお願ひします。



ミナミハンドウイルカの群れ



一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
e-mail owa@h6.dion.ne.jp

